

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

事業所名		光の家就労ホーム		第三者評価受審年度	3年度
項目	評価結果に基づく現状分析 (3年度)	改善計画 (3年度末時点)	実施状況 (3年度末時点)	実施状況 (年度末時点)	
動画などの情報提供媒体の工夫により、事業所理解の更なる促進を図ることを期待する。	パンフレットやホームページなどを通じて、利用希望者に事業所の情報を提供している。幹部層は、今後、活字が読めない人にもわかりやすく事業所を知ってもらうために動画を活用したいと考えている。またパンフレットにQRコードを付け、そこからインターネットの紹介文章や動画につながることも考えている。利用者にく(働く喜び)を与えるため、職員は多様な作業内容を提供し、仕事しやすい工夫をしている。より多くの方々に事業所を知っていただくために、動画を活用し、事業所理解のさらなる促進を期待する。	事業所の紹介動画を作成する。その紹介動画をQRコードにしてパンフレットに掲載し、特別支援学校や見学者に配布する。	9月頃に事業所の紹介動画を完成することができた。作成した紹介動画をQRコード化して、特別支援学校用のパンフレットやポスターに掲載し、各学校に配布した。その結果、次年度以降の利用希望者が増え、更なる事業所の理解促進に繋げることができた。		
利用者との会話の時間をより多く持つためにも、業務の省力化へ向けたより一層の取り組みを期待する。	利用者の聞き取り調査では、職員の処遇・態度の項目に関しては、回答者の90%が満足と返答していた。利用者からは「ほとんどの職員は対応が優しい」などの満足の声も良された。その一方、「(私は)自分の気持ちを言葉で十分に伝えることができない。ゆっくり話したくても、職員も忙しそうなのでなかなかできない」などの声も寄せられた。法人全体で業務支援ソフトを導入し、業務の省力化に取り組んでいるところである。利用者との会話の時間をより多く持つためにも、業務の省力化へ向けたより一層の取り組みを期待する。	業務省力化に向けた具体的な内容として、作業日誌、工賃計算、個別支援計画(モニタリング、アセスメント)のシステム化・効率化を図り、事務作業の時間を減らして、その分の時間を利用者支援の時間に充てていく。	9月頃には、作業日誌、工賃計算、個別支援計画(モニタリング、アセスメント)のシステム化・効率化を図ることができ、職員の事務的負担が軽減され、その分、利用者へ個別に関わる時間や利用者支援の質の向上の為の実践報告の時間を設けることができた。		
職員のメンタルヘルスへの更なる充実を期待する。	新型コロナ禍により、親睦会などの職員交流の機会を中止している。他方、作業内容の種類が年々多くなり、さらに頻回な食毒の徹底など新型コロナウイルス感染症対策などにより、職員の業務負担が増している。ストレスチェックも法人全体で行い、安静衛生委員会により職場巡回を行い、職員の心身の健康管理への配慮も行っているが、さらなる職員のメンタルヘルスへの取り組みの充実を期待する。	①コロナの感染者状況を鑑みて可能であれば職員の親睦会を開催する。 ②事務作業の効率化・省力化を図り、職員の業務負担を減らしていく。 ③施設のストレスに関する傾向を調査・分析するための研修会を設け、今後の対策に役立てていく。	コロナ感染者が激減した12月に親睦会を開催することができ職員間のコミュニケーションの充実を図ることができた。又、事務作業の効率化を図ることができ業務負担の軽減に繋げることができた。その他、新たなメンタルヘルス研修として、外部の専門家を招へいして各事業所のストレスチェック結果の突合研修を実施し、事業所のストレスに対する特徴を知ることができ今後の対策に役立てることができた。		

※この様式は、「日野市障害者日中活動系サービス推進事業補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価の結果は、施設において公表しています。